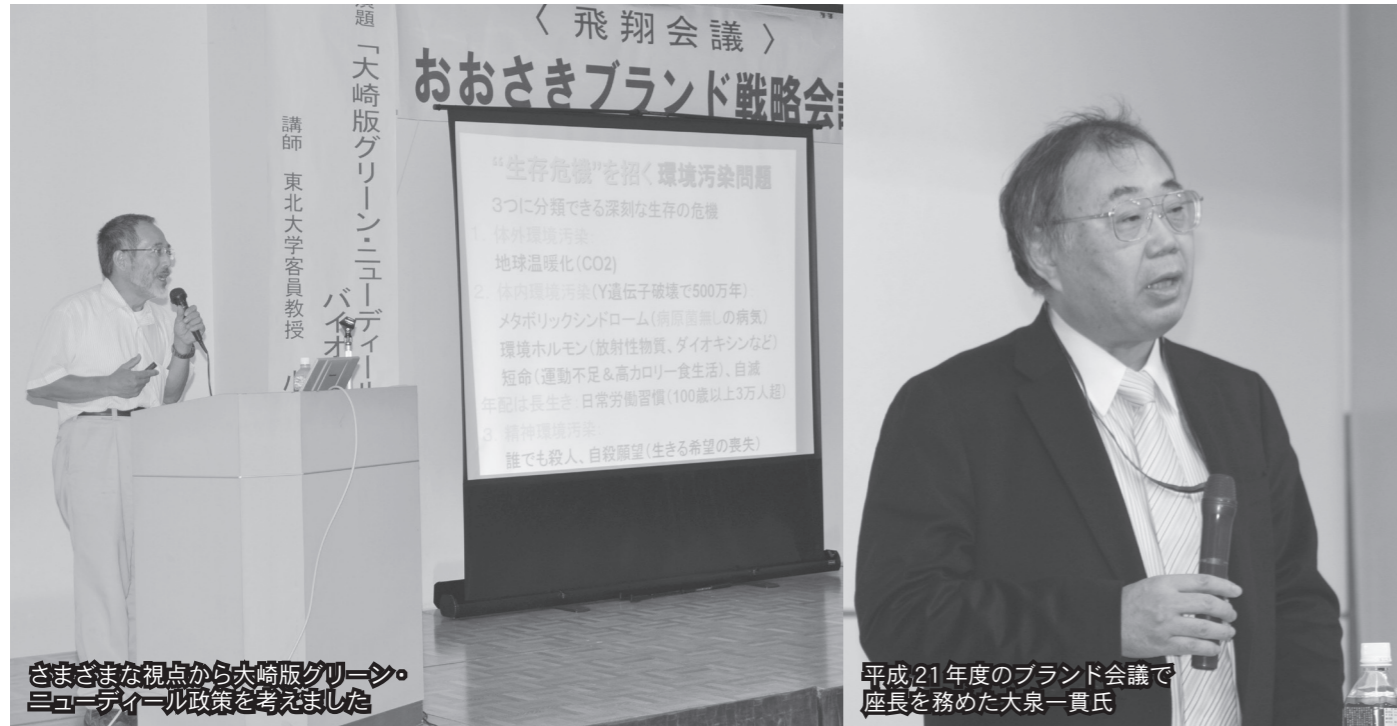


おおさきブランド戦略会議「飛翔会議」報告



平成21年度のブランド会議で座長を務めた大泉一貫氏

さまざまな視点から大崎版グリーン・ニューディール政策を考えました

おおさきブランド戦略会議「飛翔会議」は、本市の豊富な地域資源と民間活力を最大限に活用し、魅力あるまちづくりを推進するため、各分野にテーマを設け、有識者やその分野で活躍している方々から提言をいただくものです。いただいた提言は、今後の各種計画や施策に反映させていきます。今回は、平成二十一年度開催した会議の概要をお知らせします。

◎ 政策課 ☎2129

第二十回テーマ 「大崎版グリーン・ニューディール戦略」

- ◆開催日 平成二十一年七月十八日
- ◆会場 古川保健福祉プラザ
- ◆講師 小濱泰昭氏（東北大学客員教授）
- ◆パネリスト 小濱泰昭氏（NPO法人宮城マネジメント協会会長）
近江美保氏（ロハス環境共生産業創出型くらしづくり会議代表理事）
大泉一貫氏（座長・宮城大学副学長）
- ◆提言の内容 ◎これからは自然エネルギーにシフトしていかなければならない。そのためには、

利用されないままとなっている自然エネルギーの有効な活用方法を、自然に学びながら考える必要がある。

◎自然のエネルギーでは、太陽光による発電の効率がよい。冬期間や休耕している田に、太陽電池パネルを設置した発電や発電と太陽熱の利用を組み合わせた農林産品の生産も可能。

◎大崎版グリーン・ニューディールには、地域や業界などすべてが連携して取り組めるものが必要。そして、市民の理解と協力が得られる取り組みが大事。

◎森林利活用産業と農地利活用産業の振興と創出や、環境問題やバイオマスに取り組むことが、大崎版グリーン・ニューディールとなる。

◎地域ブランドは地域のアイ

第二十一回テーマ 「おおさきのあんしん・あんぜん戦略」

- ◆開催日 平成二十一年十月二十四日
- ◆会場 三本木総合支所ふれあいホール

デンテイテイ（特徴や理念を表したもの）である。コンセプトは、あるものを生かして無いものを作る。市と民間が同じテーマでやっていける風土づくりの作業が必要。

◎いろいろな産業を融合する新たなビジネスを創造する必要がある。例えば、ゼロから始めるのがやりやすいという意味で、生産量が多い大崎の大豆という資源の活用が有望である。

- ◆講師 菅原康雄氏（仙台市宮城野区福住町自主防災組織会長）
- ◆パネリスト 菅原康雄氏
小野寺文夫氏（石巻市広瀬町下防災会事務局長）
我妻仲氏（古川宮袋自主防災組織会長）
高橋久則氏（岩出山西大崎地域自治協議会事務局次長）
大泉一貫氏（座長）
- ◆提言の内容 ◎災害時には、人は人でしか救えない。人と人とのつながりや温かい心が必要。

簿表の作成が望ましい。

◎大崎市では災害を体験したことがない組織が多い。今後、各種訓練や研修などを行うことが重要。

◎動物はかごに入れておく訓練をしていると、有事に対応しやすい。

館ではカバーすることが難しいため、ネットワーキ化を図り、最低旧市町域ごとにサービスポイントが必要になる。さらに、歴史ある大崎市で、市の宝物である資料・情報を集め、各家庭、個人で持っている古い時代の資料を、図書館がきちんと整理・保存する機能がほしい。

◎図書館を建設する際の考え方として、今日・明日のことより次の時代のことを優先に考える。例えば、子ども専用のフロアを作り、図書館で子どもが育つような仕組みづくりなどが重要になってくる。未来の子どもの何を残せるのか、地域と図書館をどう繋げていくかなど、イメージを膨らませ、利用者の目線で構想を検討する必要がある。また、そのようなスタッフを育成し、利用者と一緒に成長する図書館を目指す。

- ◎形だけの自主防災組織ではなく、災害時に機能する組織への訓練や研修が重要。
- ◎防災組織と地域自治組織との連携など、地域事情によつては、広域で防災体制を作っていた方が、有事の際は対応しやすい。
- ◎自主防災組織による協定は、地域のコンビニや病院・大型店と結んでおくことも有効である。
- ◎防災については、地震以外にも昨今のゲリラ豪雨などの風水害も考慮しておくことが必要。
- ◎災害時に人の命を救うためには名簿が必要になることもあるので、地域による名

第二十二回テーマ
「豊かな心を育む生涯学習戦略」
「こんな図書館があったらいいなあ〜」

- ◆開催日 平成二十一年十一月七日
- ◆会場 大崎市役所東庁舎
- ◆講師 田中伸哉氏（福島県白河市立図書館新館準備室）
- ◆パネリスト 田中伸哉氏
平形ひろみ氏（日本図書館協会評議員）
千葉啓子氏（宮城県図書館協議会委員）
大泉一貫氏（座長）
- ◆提言の内容 ◎図書館は「記憶の倉庫」、「知識の森の入口」と言われる。図書館を活用し、関係機関とデータベース交換ができるなど、情報センターとしての情報化図書館が必要。広い大崎市でひとつの図書

◎基本構想でイメージした図書館像が、実際の基本設計に入った段階で違ったものになることが心配される。基本構想策定の中で、コンセプトに沿った構想・イメージがしっかりとわかるように作成することを心掛けてほしい。